企画・編集：立神史稔　広島大学病院 放射線診断科

序　説

循環器領域の画像診断に関してはどこから手を付けたらよいかわからないとの声をよく耳にします。「地力が伸ばせる」シリーズの心臓・大血管領域では，「放射線診断専門医試験の出題範囲の大枠をカバーする」ことを念頭に，典型的な画像所見から疾患や病態を推定できるようになることを目的としました。分厚い成書を読む前に，本書によって基礎的知識の定着を図ることで，若い先生方の循環器画像診断へのハードルを下げるきっかけになればと考えています。

今回取り上げました疾患は，日常臨床で比較的よく遭遇し，放射線診断専門医を取得するうえで必要不可欠な疾患をピックアップしています。執筆いただいた先生方には基本的な内容から，注目すべき画像所見，鑑別疾患，新しい診断方法に至るまで大変わかりやすく解説いただきました。いずれの章もとても読み応えがあり，かつ効率的に重要ポイントをおさえることができる内容となっています。

心臓・大血管領域においては，CTやMRIに加え，核医学検査や血管造影，超音波など複数のモダリティを駆使して診断するところに，この領域の醍醐味があると考えています。本特集では，なるべく多くのモダリティの画像を用いながら，各疾患のみるべきポイントを解説した構成としており，疎遠になりがちな心臓・大血管領域の画像診断の面白さ・奥深さを存分に感じていただけると思います。当初は若手医師が日常業務のなかで手元に置けるような特集として想定いたしましたが，改めて心臓・大血管の画像診断を見直したいベテランの先生方にとりましても，多くの知見を得ることができると確信しています。

どの領域の画像診断におきましても，上級医から若手医師への“直接の手ほどき”は必要ですが，心臓・大血管領域を専門とする放射線科医は全国的には多くありません。本特集が少しでも“直接の手ほどき”の代わりになればと願っております。

最後に，新型コロナ肺炎の蔓延により日常臨床がお忙しいなか，素晴らしい原稿を執筆いただいた先生方にこの場を借りて御礼申し上げます。

立神史稔

0911-1069/21/紙：￥100/電子：￥200/頁/JCOPY

2026/09/15 01:06:39